

機関番号：13301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19592483

研究課題名（和文） 出産前教育の現状分析と地域・職域モデルの構築に関する研究

研究課題名（英文） Prenatal education and perspective to maternity class network

研究代表者

島田 啓子（SHIMADA KEIKO）

金沢大学・保健学系・教授

研究者番号：60115243

研究成果の概要（和文）：出産前教育について現状を分析し、ネットワーク連携の可否についてクラス受講者の意見を集約・整理した。次に、地域と職域の連携モデルを考案するために調査から要素を抽出し、2 施設の出産前教育を収録して有識者の意見を参考に施設の特性を主にした試行ビデオ教材を制作した。最後に、連携モデルについて導入段階として関連施設へ配信するネットワークの基盤を考案した。

研究成果の概要（英文）：Prenatal education analyzes current state propriety network of aggregate and organize class student opinion. Next to formulate cooperation model regional and occupational extracts elements from the survey before the delivery of two facilities with educational expert's opinions referring to produced instructional emphasis on attempted video characteristics of the facility. Finally, cooperation models for delivering introductory level as facilities related to network infrastructure forms.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野・母性看護・助産

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：出産前教育，現状分析，連携モデル，職域，地域，ネットワーク

## 1. 研究開始当初の背景

妊産婦の出産前教育は、母子の安全な出産に向けて知識普及から始まり、その学級活動は看護者の業務比率のなかでも相当量を占め、プライマリ・ヘルス機能として果たしてきた意義も大きい。しかし、健やか親子 21（厚生労働省）でも提言されたように地域特性と医療環境の変化に応じた母子保健サービスが必要であり、妊娠・出産に妊婦の選択と希望を反映させるように情報提供や環境整備という課題がある。また妊娠初期からの

妊産婦に対する指導と継続したかかわりが重視されている現状である。欧米ではこれまでに Birth Education の評価やその指標について、関連要因の探索（Manning, 1983; Lowe, 1991）や尺度開発の試み（Lowe 1993; rummond, 1997; Sinclair, 1999）が行われてきているが、本研究の課題である妊産婦を主体に捉えた課題の分析と現状の問題を整理・統合した地域・職域連携による組織づくりやその教育のあり方に関する検討は不十分である。そこで、現在の出産前教

育に関する問題点を実証的に明らかにし、その結果をふまえて地域と職域が連携した新しい出産前教育のモデル構築を着想するに至った。

## 2. 研究の目的

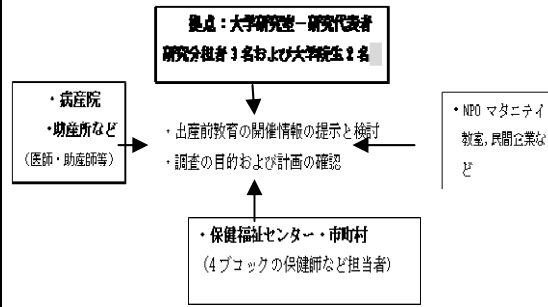
これまでの研究は、出産前教育に参加した妊婦の満足や理解度の調査が多く、個人やクラス単位でのアプローチであった。いずれも効果的な学級をめざした取り組みであるが、施設内・指導者の改善にとどまるという限界を有していた。開催される学級は、ルーチン化して内容もテキストに沿ったものでパターン化している向きも否めない。また、受講する妊産婦の視点からみれば、どこで開催される学級も類似した内容、あるいは偏りのあるプログラムで、開催主体や指導者が異なるだけという体験が臨地で語られている。妊産婦は開催案内や健診時の勧誘をうけながらも、どの出産前教育に参加すればいいのか、何が違うのか、どれが一番自身にとって価値あるクラスかに当惑する現状もある。情報が多様に氾濫する現在、その情報へのアプローチも個人によって格差があり、地域環境の変化や健康問題に即した学級活動の見直しが求められる。そこで本研究は、病産院・保健福祉センター・企業団体などが開催する出産前教育について各機関の役割と機能を現状分析し、専門職が地域と連携する有機的な保健サービスのあり方を検討することに焦点をあてる。その目的を3点挙げた。目的1は、石川県内の医療機関や保健福祉センター、企業などが行う出産前教育の現状を把握し、指導担当者の理念や主催者の目的に焦点をあてた現状分析から課題を明らかにする。目的2は、出産前教育を受講する妊産婦に焦点をあて、参加するクラスの種類や動機など実態と地域・職域連携に関する関心について受講者サイドから明らかにする。目的3は、上記1、2の結果をもとに地域・職域間の連携による出産前教育のモデル案を構築することを目指した。

## 3. 研究の方法

本研究の目的に沿って、倫理的配慮をするために金沢大学医学倫理委員会で審議され、承認を得て調査を行った（承認番号：221）。

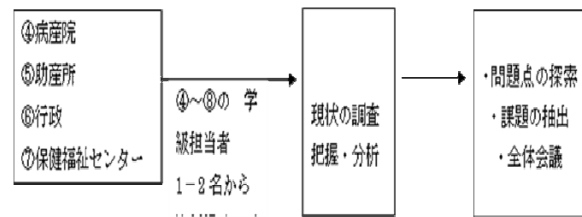
目的1. 研究プロジェクトの設置と現状システムに関する観察と分析について、地域・職域を超えた関係者のプロジェクトを構成する。次に現状システムについて参加観察および聞き取りを行い、同時にテキスト・プログラムなどを収集、一次資料として分析した。産前教育の担当者からヒアリングし、

その課題点をグループワークして、今後のシステムの実現可能性について意見を集約整理した。

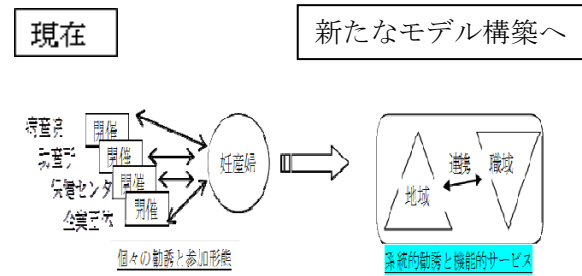


研究プロジェクトの設置と構成

次に石川県内の医療機関（病院・医院・助産所など）20ヶ所と保健福祉センター4ヶ所、市町村窓口5ヶ所などで出産前教育の担当者に対して自己記入式質問紙を作成し、郵送法にて実施した。



以上の結果をもとに、出産医療の状況を加味して地域・職域間の連携による出産前教育のモデル案を提示し、可能性と課題について聞き取り調査を行った。

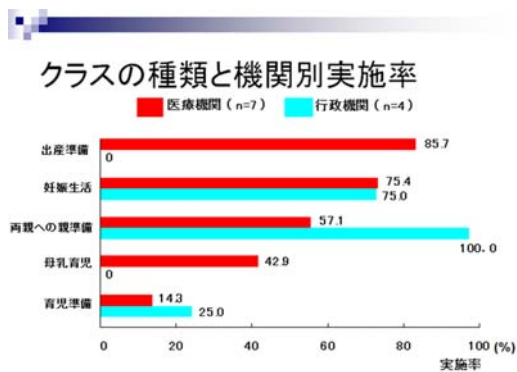


さらに、出産医療の状況を加味して地域・職域間の連携による出産前教育のモデル案を提示し、可能性と課題について聞き取り調査を行った。その結果からモデル構築を試みた。

## 4. 研究成果

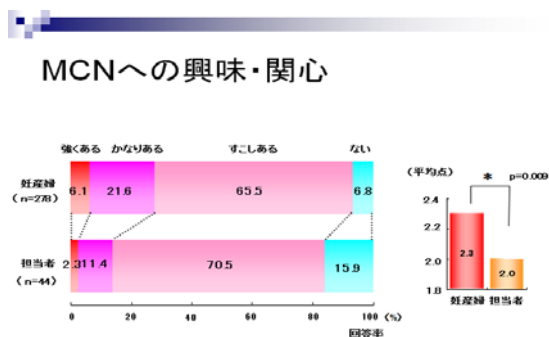
目的1については、県内の19施設から分析した結果、出産前教育を実施していない理

由にはクラスを実施していない理由としてマンパワー不足、受講参加者が少ないことが挙げられた。医療機関は行政機関に比べ、クラスの種類及び開催頻度が多かった。運営体制評価の平均点は、全項目において行政機関が、医療機関に比べて高く、クラスの満足度も高かった。運営体制の評価が高いほど担当しているクラスに対する満足度が高かった。さらにクラスに関する情報交換の機会や、システムがあると答えたのは医療機関は 18.6%、行政機関は 73.9%だった。特に医療機関に比べて行政機関で開催されていないことが明らかになった。その背景に出産施設で多くは開催されるため行政機関（保健センター、市町村保健所など）では子育て支援に偏向している傾向があった。



また、現状分析をした結果、ネットワーク連携について賛同する意見が多くメリットに幅があるクラス内容の提示可能と逆にその実働化にともなう問題点として具体的な連携方法の不確かさが挙げられた。

そして、マタニティクラス・ネットワーク (MCN) への関心はクラス担当者に比べて、妊産婦のほうがかなり強く持っており (p = 0.009), クラス担当も含めて 80%以上の方が MCN への関心・興味をもっていた。

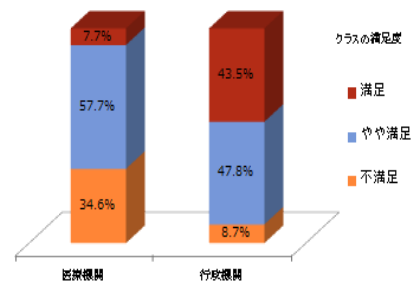


さらに、クラス運営評価を見た結果、医療機関に比べて行政機関のほうが満足度は高か

ったが、不満感の背景にはクラス内容の重複があり双方のクラス目標の高さが異なると推察された。

目的2については、連携モデルの考案のため、代表的な2施設の出産準備教育クラスを収録しビデオ視聴ができるビデオ教材を制作してコンテンツと配信システムを稼働する整備を行った。さらに、目的3については、ビデオ教材 (DVD 編集して UCI ポータル, e-learning ができるデジタルコンテンツとして配信する段階に到達したが、セキュリティの観点から ID 作成などについて確認作業を継続課題に残している。

運営評価と担当者の満足度 (N=49)



運営体制の評価得点が高いほど担当しているクラスへの満足度が高い (r=0.481, p<0.05)

さらにクラスに関する情報交換に機械やシステムが有ると回答したのは医療機関の 18.6%に比べて行政機関の 73.6%が高かった。逆に情報交換の機会がないと回答したのは医療機関に高く 81.4%を占めた。出産前教育の開催内容について施設特有のクラスを2施設から収録し、DVD 作成した。連携モデルの考案のため、代表的な2施設の出産準備教育クラスを収録しビデオ視聴ができるビデオ教材を制作してコンテンツと配信システムを稼働する整備を行った。ビデオ教材 (DVD 編集して UCI ポータル, e-learning ができるデジタルコンテンツとして配信する段階に到達したが、セキュリティの観点から ID 作成などについて検討確認を継続している。試行モニタリング分析から出産準備教育への勧誘方法や連携モデルの運用条件、フォローの方法が課題として浮上した。逆に施設のクラス特徴を前面に出す効果とオンライン中継で結ぶ遠方の妊婦仲間が形成される余剰成果も期待できた。継続してモデル改案しながら試行を重ねる意義があると結論した。



今後のMCNの在り方にむけて、遠方の妊婦仲間が共有する余剰成果も期待できた。今後は、本課題を継続して洗練しモデル改案しながら試行を重ねることが期待される。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計2件)

①高瀬麻衣, 島田啓子, 田淵紀子, 亀田幸枝, 長谷知美, 竹中由紀, 医療機関および行政機関の出産前教育における運営体制の現状分析, 第51回日本母性衛生学会, 2010.11.5, 石川県立音楽堂(石川県)

②長谷知美, 島田啓子, 田淵紀子, 亀田幸枝, 長谷知美, 竹中由紀, 高瀬麻衣, 出産前教育の現状分析とネットワークへの展望, 第51回日本母性衛生学会, 2010.11.6, 石川県立音楽堂(石川県)

[その他]

ホームページ等

<http://dspace.lob.kanazawa-u.ac.jp/dspace/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

島田 啓子 (SHIMADA KEIKO)  
金沢大学・保健学系・教授

研究者番号：60115243

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

田淵 紀子 (TABUCHI NORIKO)  
金沢大学・保健学系・教授  
研究者番号：70163657  
(H19:研究分担者)

亀田 幸枝 (KAMEDA YUKIE)  
金沢大学・保健学系・助教  
研究者番号：40313671  
(H19:研究分担者)

関塚 真美 (SEKIZUKA NAOMI)  
金沢大学・保健学系・助教  
研究者番号：60334786  
(H19:研究分担者)